もくじ

はじめに

このたびは、本製品をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。
本書は、Windows Vistaのセットアップ方法と、Windows XPから変更となったおもな操作や機能について説明しています。パソコン本体の機能説明や取り扱い方法については、付属の『取扱説明書』をお読みになり、操作を行ってください。
また、本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 他のマニュアルへの参照の場合…『　』

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムはWindows Vistaです。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows Vista

Windows Vista™ BusinessまたはWindows Vista™ Home Basicを示します。

Businessモデル

Windows Vista™ Businessが搭載されているモデルを示します。

Home Basicモデル

Windows Vista™ Home Basicが搭載されているモデルを示します。

a/b/g対応モジュール内蔵モデル、IEEE802.11abgモジュール内蔵モデル

Businessモデルで、IEEE802.11aおよびIEEE802.11bおよびIEEE802.11gに対応したモジュールを内蔵したモデルを示します。

Office 搭載モデル

Microsoft® Office Personal 2007がプレインストールされているモデルを示します。

OneNote 搭載モデル

Microsoft® Office OneNote® 2007がプレインストールされているモデルを示します。

PowerPoint 搭載モデル

Microsoft® Office PowerPoint® 2007がプレインストールされているモデルを示します。

参照 ご購入のモデルに搭載されているシステムやハードウェア構成について
『dynabook＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』、
『dynabook Satellite ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズ製品仕様表』

3 記載について

- 記載内容には、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは付属のCD／DVDからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書では、Businessモデルを例に、一部省略した画面やイラストで説明しています。
  Home Basicモデルでは、画面やイラストが異なる場合があります。また、Businessモデルをご使用の場合でも、実際の表示とは異なる場合があります。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Vista、OneNoteは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 「PC引越ナビ」は東芝パソコンシステム株式会社の商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプタを接続せずバッテリ駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。
なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

＊インテル Core 2 Duo プロセッサーを搭載したモデルのみ

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。
64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS(オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポート0120-97-1048にお問い合わせください。

6 使い終わったとき

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

参照 スリープ／電源を切る「2 使い終わったときは」

7 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または付属のCD／DVDからインストールしたシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは本書に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。

1 Windowsのセットアップ

Windowsのセットアップは、パソコンを使えるようにするために必要な操作です。
セットアップには約10分かかります。
作業を始める前に、『安心してお使いいただくために』と『取扱説明書』を必ず読んでください。
特に電源コードやACアダプタの取り扱いについて、注意事項を守ってください。

1 Windowsのセットアップ

お願い セットアップをするときの注意

■ **周辺機器は接続しないでください**

- セットアップはACアダプタと電源コードのみを接続して行います。
  セットアップが完了するまでは、プリンタ、マウスなどの周辺機器やLANケーブルは接続しないでください。

■ **途中で電源を切らないでください**

- セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障や起動できない原因になり、修理が必要となることがあります。

■ **操作は時間をあけないでください**

- セットアップ中にキーボードの操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。
  30分以上タッチパッドやキーボードを操作しなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなる場合がありますが、故障ではありません。
  もう1度表示するには、*Shift* キーを押すか、タッチパッドをさわってください。

1 パソコンに電源コードとACアダプタを接続する

『取扱説明書』の手順に従って接続してください。
接続すると、DC IN LEDが点灯します。また、Battery LEDがオレンジ色に点灯し、バッテリへの充電が自動的に始まります。

2 パソコンのディスプレイを開け、電源を入れる

『取扱説明書』の手順に従って電源を入れ、Power LEDが点灯するのを確認してください。

これでパソコンの準備は完了です。
続いてWindowsのセットアップに進みます。
パソコンが起動したら、[Windowsのセットアップ]画面が表示されます。

Windowsのセットアップ

3 [国または地域] 欄に「日本」と表示されていることを確認し、[次へ] をクリックする

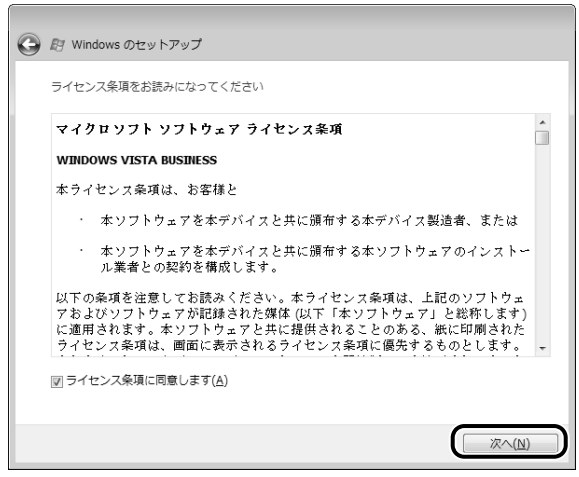
[ライセンス条項をお読みになってください] 画面が表示されます。

4 ライセンス条項の内容を確認し、[ライセンス条項に同意します] の左にある ☐ をクリックする

ライセンス条項に同意

ライセンス条項に同意しないと、セットアップを続行することはできず、Windowsを使用することはできません。
表示されている条項文の続きを表示するには、画面の右側にある ▼ ボタンをクリックします。

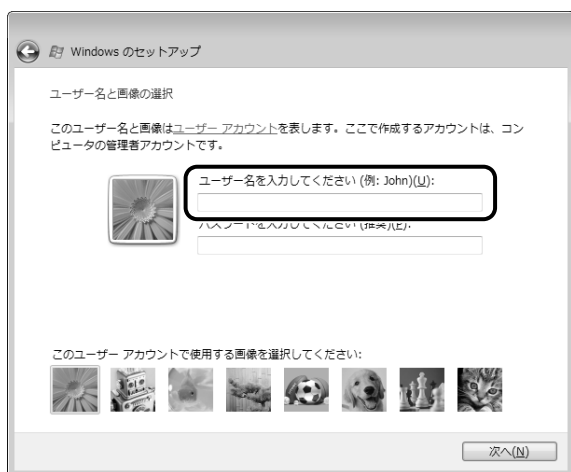
☐ をクリックすると ☑ になります。

5 ［次へ］ボタンをクリックする

［ユーザー名と画像の選択］画面が表示されます。

ユーザの名前を入力する

Windows Vistaでは、複数のユーザが1台のパソコンを別々に使用することができます。
そのとき、使用するユーザによって違う環境でWindowsを起動できるので、Windows起動時にどのユーザが使用するのかを識別する必要があります。そのために、複数のユーザが使用する場合は、ユーザそれぞれを区別するための名前を登録します。
次の手順で入力するユーザ名は、管理者ユーザを登録するためのものです。どんな名前でも良いので、自分であることを識別できるような名前を入力してください。
管理者ユーザとは、複数のユーザでパソコンを使用する場合、全体を管理して他のユーザの使用制限を設定したりできるユーザです。

6 ユーザの名前を入力する

［ユーザー名を入力してください］と書いてある下の欄に、管理者ユーザの名前を入力してください。「|」（カーソル）が表示されている位置から文字の入力ができます。ここでは、管理者ユーザの名前を入力します。

「dynabook」と入力するときは、キーボードで D Y N A B O O K と押します。

参照 入力に使うキーの位置について『取扱説明書』

■キーを押しても表示されないときは

キーを押しても文字が表示されない場合は、入力欄に「|」が点滅しながら表示されていることを確認してください。「|」はカーソルといい、表示されている位置から文字などを入力できます。表示されていないときは、［ユーザー］欄をクリックしてください。

■入力を間違えたときは

入力を間違えたときは次の操作で文字を削除して、もう1度入力しましょう。

- カーソルの左側の文字を削除する .... BackSpace キー
- カーソルの右側の文字を削除する .... Del キー

  カーソルを左右に動かすには、← キーまたは → キーを押します。

他のユーザは、後で登録できます。

パスワードを入力する

パスワードとは、それを入力しないと次のステップに進めないようにできる、特定の文字列です。
ここでは、Windows Vistaを起動するときに入力しないと、起動できないようにするためのパスワードを設定します。これを「Windowsログオンパスワード」と呼びます。

7 パスワードを入力する

［パスワードを入力してください］と書いてある下の欄に、Windowsログオンパスワードとして設定したい文字を入力してください。
Windowsログオンパスワードは半角英数字で127文字まで設定できますが、8文字以上で設定することを推奨します。英字の場合、大文字と小文字は区別されます。
Windowsログオンパスワードを入力しないでそのまま次の画面へ進むこともできますが、セキュリティ上、設定することを強くおすすめします。

入力した文字は「●●●●●」で表示されるため、画面を見て確認することはできません。入力し間違えても画面ではわからないので、気をつけて入力してください。
Windowsログオンパスワードを入力すると、すぐ下に［パスワードをもう一度入力してください］という入力欄が表示されます。

8 パスワードをもう1度入力する

［パスワードをもう一度入力してください］と書いてある下の欄に、手順 7 で入力したWindowsログオンパスワードを、もう1度入力してください。

パスワードのヒントを入力する

設定したWindowsログオンパスワードを忘れてしまったときのために、ヒントを入力しておいて、パスワード入力画面で表示させることができます。

9 必要な場合はパスワードのヒントを入力する

それを読めば、自分だけはパスワードを思い出せるようなヒントを入力してください。

パスワードのヒントは入力を省略することもできます。
その場合は、何も入力しないで手順 **10** に進んでください。

ユーザの画像を選択する

どのユーザであるのかを示すために、ユーザ名の他に画像を登録することもできます。

10 使いたい画像をクリックする

画面下部の画像群から、使いたい画像をクリックしてください。

11 ［次へ］ボタンをクリックする

［コンピュータ名を入力して、デスクトップの背景を選択してください。］画面が表示されます。

コンピュータの名前を入力する

コンピュータに名前をつけるのは、使用するパソコンを他のパソコンと区別するためです。ネットワークに接続する場合は、必ず設定してください。

12 コンピュータの名前を入力する

［コンピュータ名を入力してください］と書いてある下の欄に、半角英数字で任意の文字列を入力してください。このとき、同じネットワークに接続するコンピュータとは別の名前にしてください。

背景画像を選択する

パソコンの画面（デスクトップといいます）の背景を設定します。

13 使いたい画像をクリックする

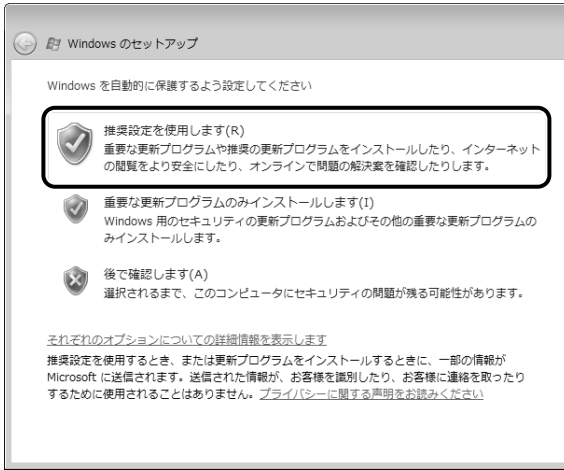
画面下部の画像群から、使いたい画像をクリックしてください。
クリックすると、選択した画像が実際の背景に表示されます。

＊選択できる背景（壁紙）は、シリーズによって異なります。

14 ［次へ］ボタンをクリックする

［Windowsを自動的に保護するよう設定してください］画面が表示されます。

コンピュータの保護の設定をする

15 ［推奨設定を使用します］をクリックする

［時刻と日付の設定の確認］画面が表示されます。

時刻と日付を確認する

コンピュータの内蔵時計の時刻と日付が合っているかどうか、確認します。

16 時刻と日付を確認する

合っていない場合は、正しい内容に設定してください。

［タイムゾーン］は、欄の右にある ▼ をクリックして、表示された地名から「大阪、札幌、東京」をクリックしてください。

年・月の左右にある ◀ または ▶ をクリックすると、月ごとに順に表示が切り替わります。
年・月を合わせてから、下の該当する日をクリックしてください。

時刻表示の右にある ▲ または ▼ をクリックすると、順に数字が切り替わります。
変更したい時／分／秒をクリックしてから ▲ または ▼ をクリックしてください。

メモ

- 本製品に用意されているウイルスチェックソフトの設定をする前に、時刻と日付が合っていることを必ず確認してください。時刻と日付が合っていないと、アプリケーションの設定後から適用される使用期限などが、正しく計測されないことがあります。
  日付と時刻はWindowsセットアップ終了後に設定することもできます。

17 ［次へ］ボタンをクリックする

［ありがとうございます］画面が表示されます。

18 ［開始］ボタンをクリックする

セットアップ完了

Windowsセットアップが終了すると、コンピュータのパフォーマンスを確認する画面が表示されます。
画面下部に［しばらくお待ちください。］と表示されている間は、何も操作しないでお待ちください。

パフォーマンスの確認が終了すると、Windowsログオンパスワードを入力する画面が表示されます。
手順 7 で設定したパスワードを入力し、Enterキーを押してください。
［ようこそ］画面が表示されます。

（表示例）

日付と時刻の確認

時刻は、画面右下の［通知領域］に表示されています。日付は、時刻表示部分にポインタを合わせると表示されます。正しく設定されているかどうか確認してください。

正しく設定されていない場合は、『Windowsヘルプとサポート』を確認して設定してください。

2 使い終わったときは

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る方法のほかに、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する方法があります。この機能を、「スリープ」と呼びます。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。その場合スリープ中でもバッテリを消耗しますので、ACアダプタを取り付けておくことを推奨します。
なお数日以上使用しないときや、付属の『取扱説明書』で電源を切る手順が記載されている場合（増設メモリの取り付け／取りはずしや、バッテリパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

1 スリープにする

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。
スリープには、通常のスリープの他に「ハイブリッド スリープ」という機能もあります。作業を中断している間にバッテリの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容が消失します。ハイブリッド スリープを有効にして使用することを推奨します。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

1 スリープの実行方法

1 ［スタート］ボタンをクリックする

2 ［電源］ボタンをクリックする

Power ⏻ LEDが点灯中は、バッテリパックを取りはずさないでください。

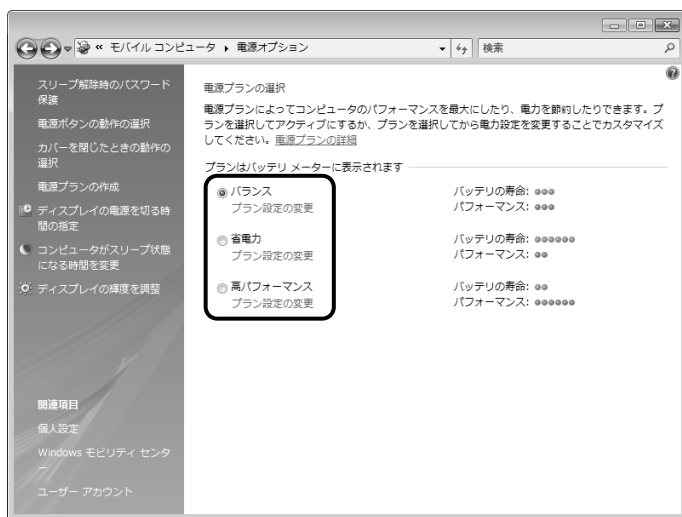
2 スリープ機能を強化する

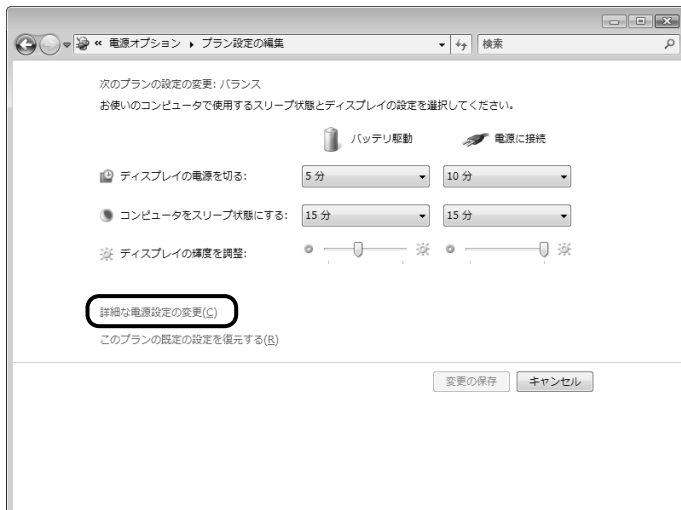
Windows Vistaには、通常のスリープの他に「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとハードディスクの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープではそれまでの作業内容が消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておけばハードディスクから作業内容を復元できるので、ハイブリッド スリープを有効にして使用することを推奨します。
ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

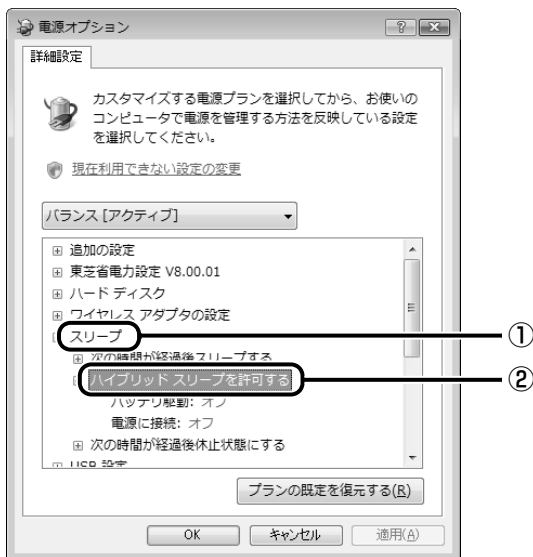
ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

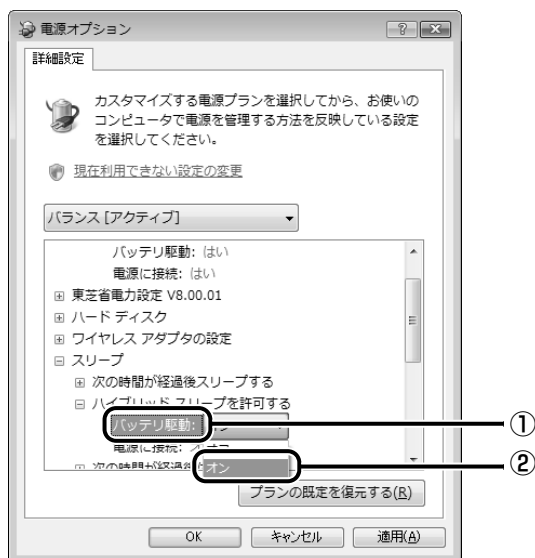
2 ［ バッテリ設定の変更］→選択している電源プランの［プラン設定の変更］をクリックする

［プラン設定の変更］は、各電源プランの下に表示されています。選択している電源プランの下に表示されている［プラン設定の変更］をクリックしてください。

ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

3 ［詳細な電源設定の変更］をクリックする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 ［スリープ］をダブルクリックし①、表示される項目から［ハイブリッド スリープを許可する］をダブルクリックする②

5 ハイブリッド スリープを有効にしたい状態をクリックし①、表示された項目から［オン］をクリックする②

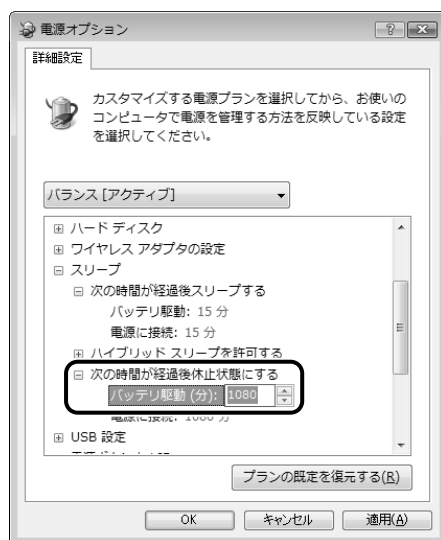
それぞれの項目は、次のようになります。

［バッテリ駆動］：バッテリ駆動時にハイブリッド スリープ機能を有効にしたい場合
［電源に接続］　：電源に接続してるときにハイブリッド スリープ機能を有効にしたい場合

6 ［OK］ボタンをクリックする

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
［詳細設定］画面で［次の時間が経過後休止状態にする］をダブルクリックし、表示された項目を選択して ▲ ▼ で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

2 電源を切る

数日以上パソコンを使わないときは、スリープではなく電源を切ってください。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED、ブリッジメディアLED、SD Card LED、FDD/CD-ROM LED、ディスクトレイLED*1が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

＊1 LEDの名称は、お使いのモデルによって異なります。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 ［スタート］ボタンをクリックする

2 ボタンをクリックし①、表示されたメニューから［シャットダウン］をクリックする②

Windowsを終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power ⏻ LEDが消灯します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

■再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう1度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。
再起動するには、次のように操作してください。

①［スタート］ボタン（ ）をクリックし、表示されたメニューから をクリックする
②表示されたメニューから［再起動］をクリックする

3 Windows Vistaを使用するにあたって

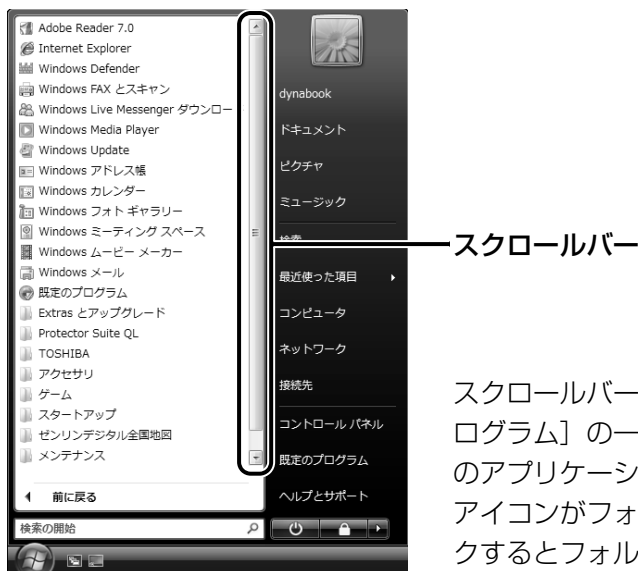
1 Windows Vistaでの基本操作について

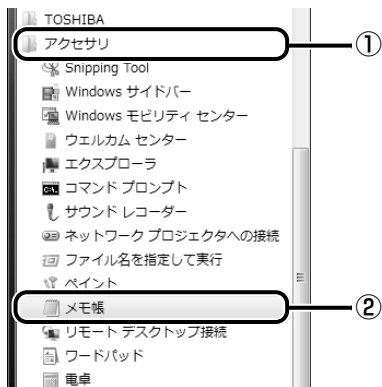
アプリケーションの起動について

Windows Vistaでのアプリケーションの起動手順を「メモ帳」を例に紹介します。

1 ［スタート］ボタンをクリックし①、［すべてのプログラム］をクリックする②

［スタート］メニューの左側の部分が［すべてのプログラム］の一覧に切り替わります。

2 起動するアプリケーションを探す

スクロールバーをドラッグすると、［すべてのプログラム］の一覧がスクロールされます。目的のアプリケーションを探してください。左側のアイコンがフォルダ（ ）の場合は、クリックするとフォルダ内の一覧が開きます。

3 ［アクセサリ］をクリックし①、［メモ帳］をクリックする②

「メモ帳」が起動します。

■本書での記載について

本書では、これらの手順を次のように記載しています。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［アクセサリ］→［メモ帳］をクリックする

［コントロールパネル］について

［コントロールパネル］画面には「コントロールパネルホーム」と「クラシック表示」の2種類があります。ご購入時は「コントロールパネルホーム」が表示されるよう設定されています。『取扱説明書』内で説明している項目が見つからないときは、「クラシック表示」に切り替えて目的の項目を探してください。

■「クラシック表示」への切り替え方法

1 ［コントロールパネルホーム］画面で、［クラシック表示］をクリックする

［クラシック表示］画面に切り替わります。

（表示例）

［ユーザーアカウント制御］について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、内容を確認し、［続行］または［許可］ボタンをクリックしてください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

Windows標準のメールソフトについて

Windows標準のメールソフトは、Windows XPでは「Outlook Express」でしたが、Windows Vistaでは「Windows メール」です。

1 ドメインに接続する

＊Businessモデルの場合

企業内など、ある1つにまとまったネットワークをドメインと呼びます。
ここでは、本製品をドメインに接続する設定方法を説明します。
ドメインのユーザ名やパスワードなど、詳しい設定方法がわからない場合はネットワーク管理者に問い合わせてください。
本製品を複数のユーザで使用している場合はAdministratorと呼ばれる管理者のユーザに切り替えてから設定を行ってください。

メモ　ドメインの設定方法

- 操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、管理者ユーザ権限でWindowsにログオンしていることを確認し、［続行］ボタンをクリックしてください。［続行］ボタンをクリックしないと、操作を続けることはできません。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［システムとメンテナンス］をクリックする

3 ［システム］をクリックする

4 ［設定と変更］をクリックする

［システムのプロパティ］画面が表示されます。

5 ［コンピュータ名］タブで［変更］ボタンをクリックする

6 ［ドメイン］の左にある をクリックしてから接続するドメインの名前を入力し、［OK］ボタンをクリックする

7 ドメインの［ユーザー名］と［パスワード］を入力し、［OK］ボタンをクリックする

8 ［OK］ボタンをクリックする

9 ［OK］ボタンをクリックする

パソコンを再起動してください。

Windows Vistaでわからない操作があったとき

Windows Vistaの使いかたについては、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をクリックして、『Windowsヘルプとサポート』を参照してください。
Windows Vistaの最新情報やアップデートの情報は次のホームページから確認できます。

- **Windows Vistaについて**
  URL：http://www.microsoft.com/japan/windowsvista/
- **Windows Vistaのアップデート**
  URL：http://windowsupdate.microsoft.com/
- **お問い合わせ先**
  Windows Vista についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。
  http://support.microsoft.com/
  Windows Vista に関する一般的なお問い合わせは、東芝PCあんしんサポートになります。

2 本製品のアプリケーションについて

本製品のアプリケーションは、『取扱説明書』で紹介しているものと一部異なります。
ここでは、操作や仕様が異なるおもなアプリケーションの説明をします。システムやお使いのモデルのソフトウェア環境によっては、この他にも『取扱説明書』に記載された内容とは、一部動作が異なる場合があります。

「東芝省電力」について

「東芝省電力」は、Windowsの「電源オプション」に含まれています。省電力の設定をする場合は、次の操作を行ってください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をクリックする

2 ［モバイルコンピュータ］をクリックする

［電源オプション］のカテゴリが省電力の設定に関する項目です。

3 設定したい項目名をクリックする

「東芝HWセットアップ」について

「東芝HWセットアップ」は、次の手順で起動してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をクリックする

「PC引越ナビ」について

本製品にインストールされている「PC引越ナビ」は、Windows Vistaに対応しています。
また、表示される画面は、『取扱説明書』に記載されているものと異なります。

❏ 移行できる設定とデータについて

移行できる設定やデータについて、詳しくは、「PC引越ナビ」の［詳細説明 引っ越し可能なデータ］画面で確認してください。

［PC引越ナビ 機能選択］画面で［PC引越ナビを初めて使う方は、こちらを選択してください。］をクリックすると、2ページ目に表示されます。
知りたい項目のアイコンをクリックしてください。

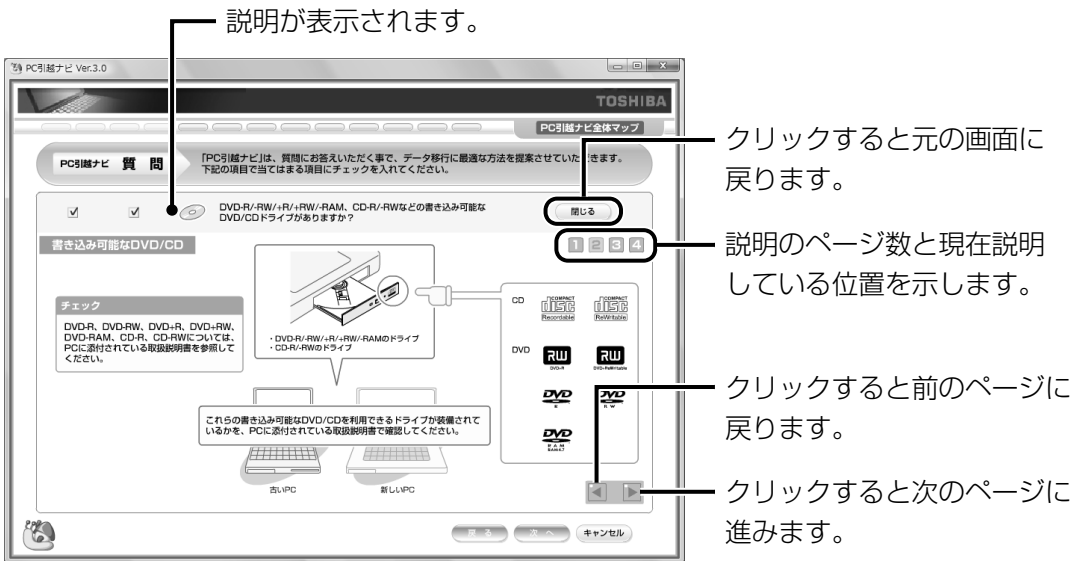
❏ 説明画面について

説明ボタンや画面の構造は、次のとおりです。

■ 操作に困ったとき

［説明］ボタン、または［詳細説明］ボタンをクリックすると、表示している画面の詳細説明が表示されます。

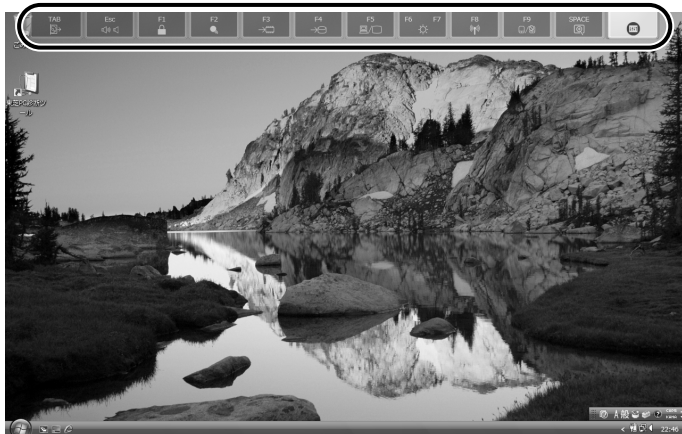
■ 説明画面の操作方法

画面の構造は、次のとおりです。

「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、マウス操作で簡単にホットキー機能の実行や東芝製のユーティリティを起動することができるユーティリティです。
デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■操作方法

1 ポインタをデスクトップ画面の上の方へ移動する

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 設定したい機能のカードをクリックする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目にポインタを合わせる

ポインタを合わせると、アイコンが大きくなります。

4 設定したい項目のアイコンが大きい状態でクリックする

選択した項目に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■マウス操作でのカードの表示をやめる

ポインタをデスクトップ上部に合わせても「TOSHIBA Flash Cards」が表示されないように設定することもできます。次の手順を行ってください。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cardsの設定] をクリックする

2 [マウスでもカードの表示を開始する] のチェックをはずし①、[OK] ボタンをクリックする②

メモ　キーボードで操作する

- 次のキーの組み合わせで、「TOSHIBA Flash Cards」のホットキー機能のカードを表示することができます。

キー	TOSHIBA Flash Cardsのカード	キー	TOSHIBA Flash Cardsのカード
Fn＋Esc	スピーカのミュート（消音）	Fn＋F4	休止状態の実行
Fn＋Space	本体液晶ディスプレイの解像度切り替え	Fn＋F5	表示装置の切り替え
		Fn＋F6	本体液晶ディスプレイの輝度を下げる
Fn＋Tab	ドライブの電源オン／オフ機能	Fn＋F7	本体液晶ディスプレイの輝度を上げる
Fn＋F1	インスタントセキュリティ機能	Fn＋F8	無線LANオン／オフ機能
Fn＋F2	電源プランの設定	Fn＋F9	タッチパッドオン／オフ機能
Fn＋F3	スリープ機能の実行	―	―

＊使用できる機能は、お使いのモデルによって異なります。

カードが表示されたら、Fnキーを押したままファンクションキーを押しなおし、設定したい項目のアイコンが大きい状態で指をはなしてください。選択した設定が実行されます。

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [Flash Cards ヘルプ] をクリックする

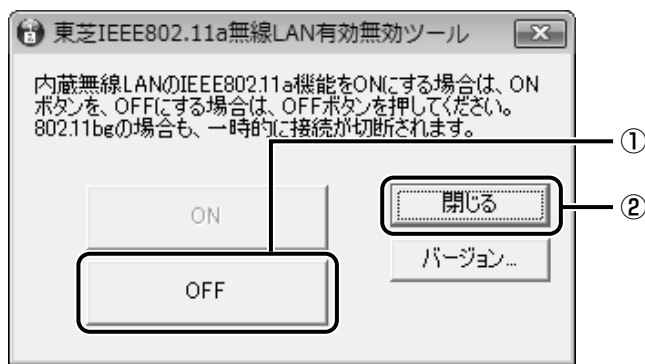
「東芝IEEE802.11a無線LAN有効無効ツール」について

＊a/b/g対応モジュール内蔵モデル、IEEE802.11abgモジュール内蔵モデルの場合

電波法により、5GHz帯無線LANの屋外での使用は禁止されています。
そのため、屋外で無線LANを使用する場合には、「東芝IEEE802.11a無線LAN有効無効ツール」でIEEE802.11a機能をOFFにしたうえで使用してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→「TOSHIBA」→［ネットワーク］→［IEEE802.11a無線LAN有効無効ツール］をクリックする

［東芝IEEE802.11a無線LAN有効無効ツール］画面が表示されます。

2 ［OFF］ボタンをクリックし、［閉じる］ボタンをクリックする

IEEE802.11a機能がOFFになります。

メモ

- 屋内でIEEE802.11a機能を使用する場合は、手順 **2** で［ON］ボタンをクリックし、IEEE802.11a機能をONにしてください。

使用できないアプリケーションについて

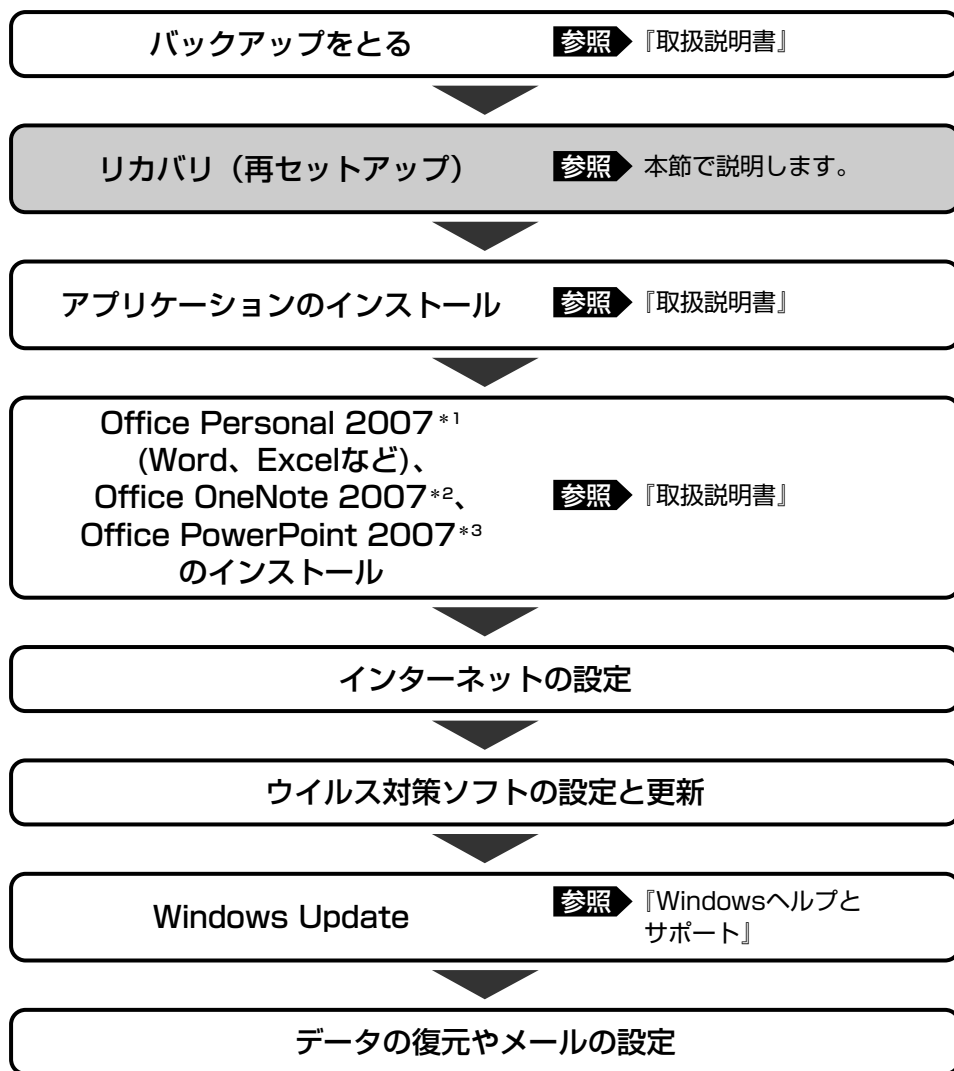
『取扱説明書』に記載されている以下のアプリケーションは、本製品にはインストールされていません。

- Fn-esse
- PadTouch

4 リカバリをする

リカバリ（再セットアップ）とは、お客様が作成したデータや、購入後にインストールしたアプリケーション、現在の設定などをすべて削除し、もう一度ご購入時の状態に復元する作業です。
ここでは、本製品でのリカバリ手順について説明します。
リカバリをする前に確認することや、しておくことが『取扱説明書』に記載されていますので、作業を始める前に必ず読んでください。

1 リカバリ（再セットアップ）の流れ

リカバリをする場合は、次のような流れで作業を行ってください。

＊1 Office搭載モデルの場合
＊2 OneNote搭載モデルの場合
＊3 PowerPoint搭載モデルの場合

2 リカバリ方法

リカバリには、次の方法があります。

- ハードディスクドライブからリカバリをする
- リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクは、パソコン本体に付属されている場合と、ご自分でメディアを用意し、作成する場合があります。また、ご購入のモデルによっては、リカバリディスクを作成できない場合があります。ご購入のモデルでリカバリディスクを作成できるかは、『取扱説明書』で確認してください。
リカバリディスクが使用できる場合でも、通常はハードディスクドライブからリカバリをしてください。
リカバリディスクからのリカバリは、ハードディスクドライブのリカバリ（再セットアップ）ツール（システムを復元するためのもの）を消してしまったり、ハードディスクからリカバリができなかった場合などに行うことをおすすめします。

本製品のリカバリは、ユーザ権限に関わらず、誰でも実行できます。誤って他の人にリカバリを実行されないよう、ユーザパスワードを設定しておくことをおすすめします。

参照 ユーザパスワード『取扱説明書』

3 ハードディスクからリカバリをする

ハードディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。
購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元（推奨）

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。Cドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。ただし、BIOS情報やコンピュータウイルスなどの影響でデータが壊れている場合、Cドライブ以外の領域にあるデータも使えないことがあります。

■パーティションサイズを指定して復元

Cドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。Cドライブ以外のハードディスクの領域は1つの領域になり、データや設定などはすべて消去されます。

お願い　リカバリツールについて

- Windows の「ディスクの管理」を使用すると、ボリュームがないプライマリパーティションが表示されます。このパーティションにはリカバリ（再セットアップ）するためのデータが保存されていますので、削除しないでください。削除した場合、リカバリはできなくなります。

メモ

- リカバリは、ドライブにメディアをセットしていない状態で実行してください。ドライブにメディアがセットされていると、エラーになる場合があります。
- どのメニューを選択しても、Cドライブにはリカバリツールから購入時と同じシステムが復元されます。

ここでは、「パーティションサイズを変更せずに復元」する方法を例にして説明します。

1 パソコンの電源を切る

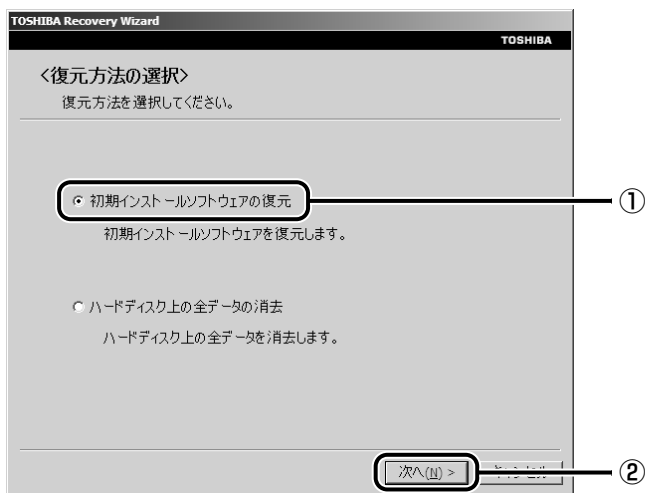
2 ACアダプタと電源コードを接続する

3 キーボードの 0 （ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

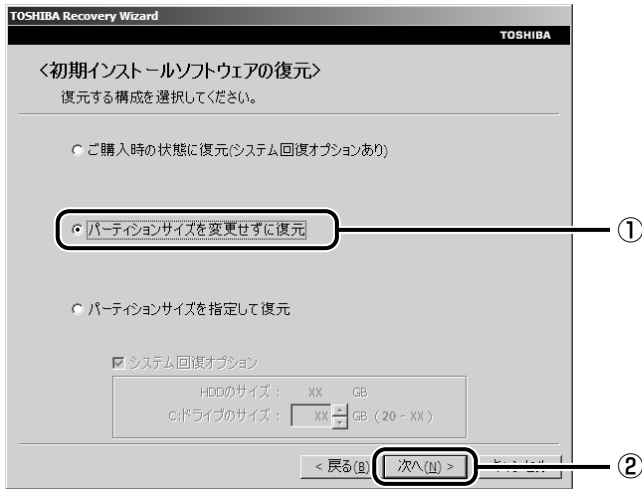
［dynabook］、または［TOSHIBA］画面が表示されたら、指をはなしてください。
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力して Enter キーを押してください。
メッセージ画面が表示されます。

4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［初期インストールソフトウェアの復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［ハードディスク上の全データの消去］は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、リカバリツールの領域以外のすべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について「5-1 ハードディスクの内容をすべて消去する」

6 ［パーティションサイズを変更せずに復元］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。

他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］：P.36
- ［パーティションサイズを指定して復元］：P.36

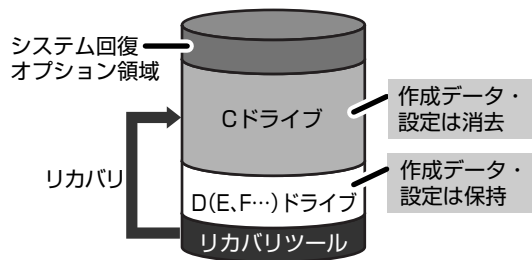
- **［パーティションサイズを変更せずに復元］とは**

［パーティションサイズを指定して復元］を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。Cドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

Cドライブ（　）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］と［パーティションサイズを変更せずに復元］は、リカバリツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することはできません。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［次へ］ボタンをクリックすると、復元が実行され、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

システムが再起動し、［Windowsのセットアップ］画面が表示されます。

9 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1 Windowsのセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について『取扱説明書』

4 リカバリをする

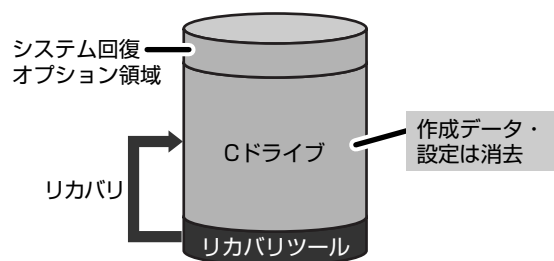
購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続『取扱説明書』

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「3 ハードディスクからリカバリをする」の手順 6 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

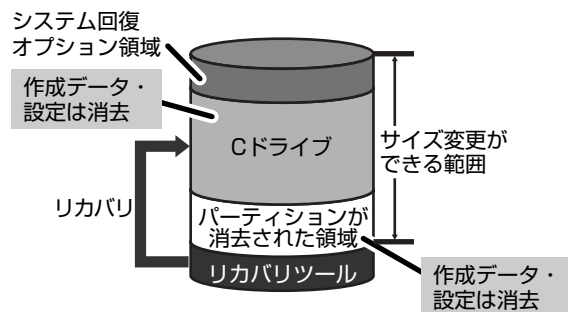
■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

パソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻します。

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■パーティションサイズを指定して復元

ハードディスク（Cドライブ）のサイズを変更します。
Cドライブ以外の領域区分（パーティション）は消去され、一つの領域になります。その領域（□）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。
［システム回復オプション］のチェックをはずしてリカバリを行うと、システム回復オプション領域は消去されます。その領域（■）も、「ディスクの管理」から設定するとドライブとして使用できます。

参照 ディスクの管理『取扱説明書』

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

①［システム回復オプション］にチェックをする、またはチェックをはずす
②［C：ドライブのサイズ］で ▲ ▼ をクリックしてパーティション（Cドライブ）のサイズを指定する
③［次へ］ボタンをクリックする
手順 6 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

4 リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクを作成する

リカバリディスクが付属されていないモデルは、あらかじめリカバリディスクを作成してください。ご購入のモデルでリカバリディスクが作成できるか、リカバリディスクの作成方法は、『取扱説明書』で確認してください。

リカバリディスクからリカバリをする

リカバリディスクのリカバリツールでは、次のメニューのなかからリカバリ方法を選択することができます。あらかじめリカバリ方法を決めておくとスムーズに操作できます。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

ハードディスクをパソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻し、購入時にプレインストールされていたシステムとアプリケーションを復元します。
購入後に作成したデータや設定などはすべて消去されます。

■パーティションサイズを変更せずに復元（推奨）

パーティションサイズを変更して使用していた場合、そのパーティションの構造を保ったままシステムを復元します。Cドライブに保存されていたデータは消去され、購入時の状態に戻りますが、その他のドライブに保存されていたデータや設定は、そのまま残ります。

■パーティションサイズを指定して復元

Cドライブ（ハードディスク）のサイズを指定して復元することができます。Cドライブ以外のハードディスクの領域は1つの領域になり、データや設定などはすべて消去されます。

メモ

- どのメニューを選択しても、Cドライブには購入時と同じシステムが復元されます。

1 ACアダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。

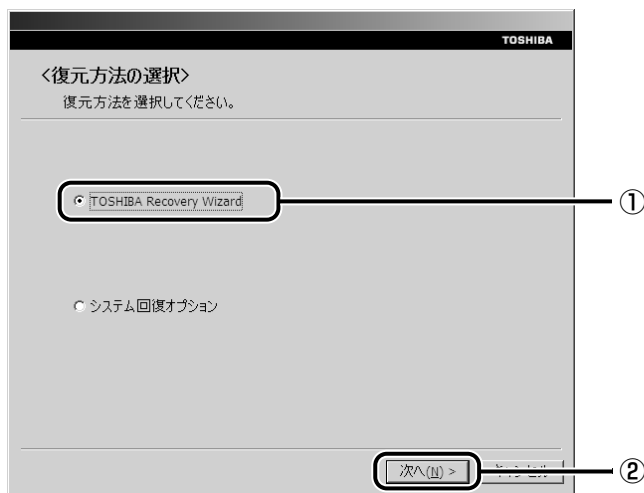
参照 リカバリディスクのセット『取扱説明書』

3 キーボードのF12キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

［dynabook］、または［TOSHIBA］画面が表示されたら、指をはなしてください。
ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
ユーザパスワードを入力してEnterキーを押してください。

4 →または←キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、Enterキーを押す

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［TOSHIBA Recovery Wizard］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

［システム回復オプション］には、パソコンを使用するうえでのさまざまなトラブルやデータ保護に対応したメニューが用意されています。

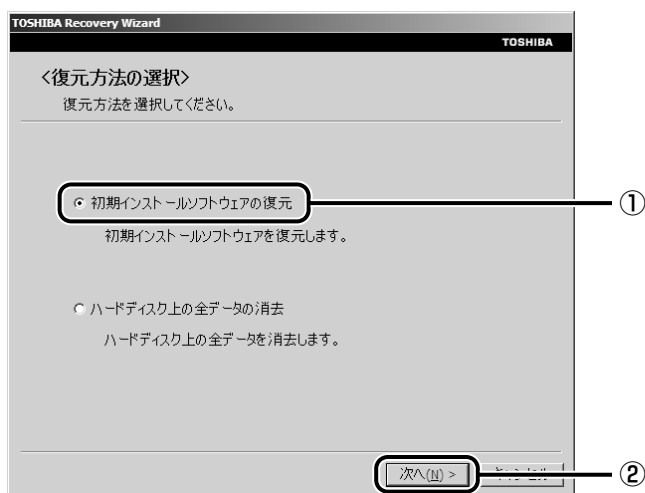
参照 詳細について「本節 5 システム回復オプションについて」

メッセージ画面が表示されます。

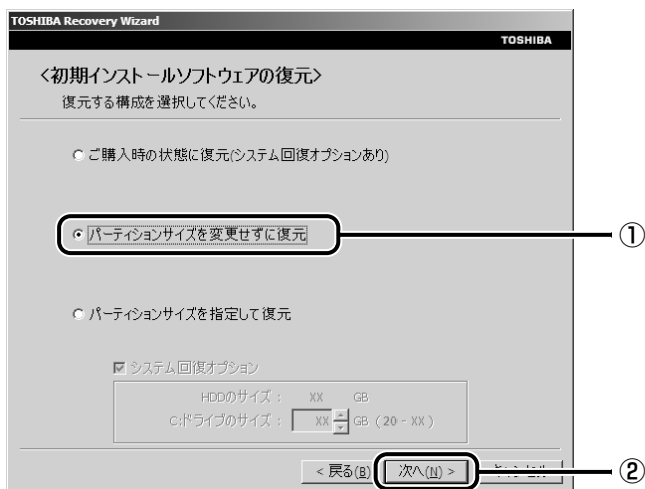
6 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

2枚目の［復元方法の選択］画面が表示されます。

4 リカバリをする

7 [初期インストールソフトウェアの復元]をチェックし①、[次へ]ボタンをクリックする②

[ハードディスク上の全データの消去]は、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、個人情報漏えいを防ぐために、ハードディスクのデータを完全に消去するためのものです。通常は実行しないでください。実行すると、ハードディスク上にある、すべてのデータが削除されます。

参照 ハードディスクの消去について「5-1 ハードディスクの内容をすべて消去する」

8 [パーティションサイズを変更せずに復元]をチェックし①、[次へ]ボタンをクリックする②

［パーティションサイズを変更せずに復元］を選択した場合の意味と動作は、次のとおりです。
他のメニューを選択した場合については、次のページを参照してください。

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］：P.42
- ［パーティションサイズを指定して復元］：P.43

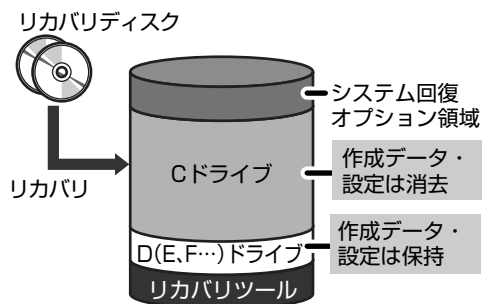
- **［パーティションサイズを変更せずに復元］とは**

「パーティションサイズを指定して復元」を使って、すでにハードディスクの領域を分割している場合などに使用します。Cドライブがリカバリされ、それ以外の領域のデータはそのまま残ります。

Cドライブ（■）にあたる領域は、作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

（ハードディスクの領域を分割している場合の表示例）

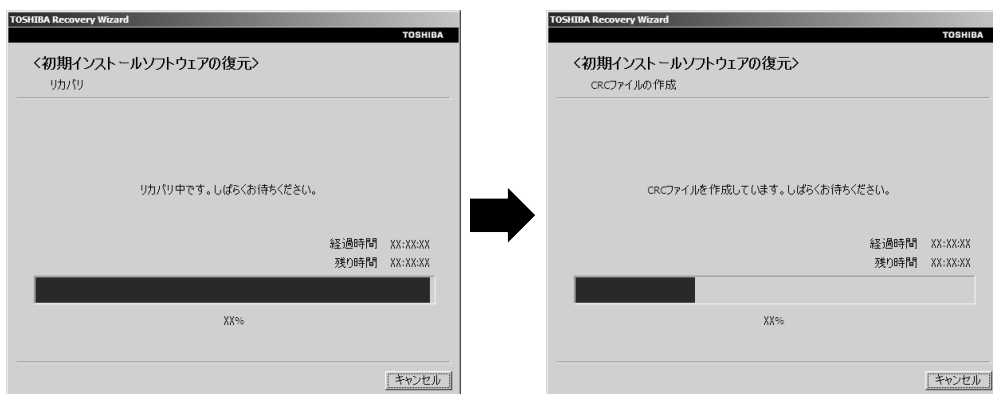
「先頭パーティションのデータは、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

メモ

- ［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］と［パーティションサイズを変更せずに復元］は、リカバリツールとシステム回復オプションの領域が確保されているため、ハードディスクの100%を使用することができません。

9 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。

［次へ］ボタンをクリックすると、復元が実行され、［パーティションを初期化しています。しばらくお待ちください。］画面が表示されます。

長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。
復元中は、次の画面が表示されます。リカバリの経過に従い、画面が変わります。

＊手順 8 で［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］を選択した場合は、最初に［コピーしています。］画面が表示されます。長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリディスクが複数枚ある場合は、ディスクを入れ替えるメッセージが表示され、ディスクトレイが少し出てきます。ディスクの番号順に入れ替え、［OK］ボタンをクリックしてください。

復元が完了すると、終了画面が表示されます。

10 ［終了］ボタンをクリックする

自動的にディスクトレイが少し出てきます。

11 リカバリディスクを取り出す

システムが再起動し、［Windowsのセットアップ］画面が表示されます。

12 Windowsのセットアップを行う

参照 詳細について「1 Windowsのセットアップ」

メモ

- 一部のアプリケーションは、リカバリ後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

  参照 詳細について『取扱説明書』

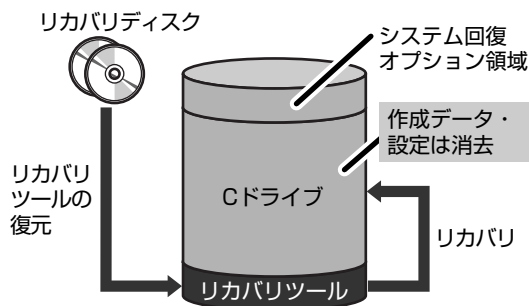
購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう1度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windowsのセットアップ後に行ってください。

参照 周辺機器の接続『取扱説明書』

［初期インストールソフトウェアの復元］画面のリカバリメニューについて

「4 リカバリディスクからリカバリをする」の手順 8 の［初期インストールソフトウェアの復元］画面で表示されるリカバリメニューの意味と動作は次のようになります。

■ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）

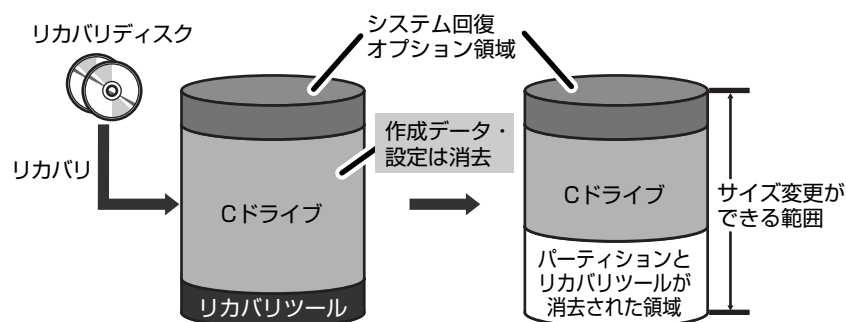
パソコンを購入したときの状態（パーティションが1個の状態）に戻します。

設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

手順 8 の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

■ パーティションサイズを指定して復元

ハードディスク（Cドライブ）のサイズを変更します。
Cドライブ以外の領域区分（パーティション）とリカバリツールの領域は消去され、1つの領域になります。その領域（□）は「ディスクの管理」から再設定を行うと、再びドライブとして使用できるようになります。
［システム回復オプション］のチェックをはずしてリカバリを行うと、システム回復オプション領域は消去されます。その領域（■）も、「ディスクの管理」から設定するとドライブとして使用できます。

参照 ディスクの管理『取扱説明書』

作成したデータ、設定した項目、インストールしたアプリケーションなどがすべて消去された状態になります。

① ［システム回復オプション］にチェックをする、またはチェックをはずす
② ［C：ドライブのサイズ］で▲▼をクリックしてパーティション（Cドライブ）のサイズを指定する
② ［次へ］ボタンをクリックする
手順 **8** の後は「ハードディスクの内容は、すべて消去されます。」というメッセージが表示されます。

5 システム回復オプションについて

本製品には、「システム回復オプション」がインストールされています。「システム回復オプション」とは、Windowsが正常に起動しなくなった場合に、問題を解決して起動できるようにするメニューが集まったものです。

1 電源を入れる

2 ［dynabook］、または［TOSHIBA］画面が表示されている間に、F8 キーを数回連打する

しばらくすると「詳細ブートオプション」が表示されます。
F8 キーを押すタイミングにより、「詳細ブートオプション」が表示されない場合があります。その場合は、再度電源を入れ直して手順 **2** を実行してください。
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password=」と表示されます。ユーザパスワードを入力して Enter キーを押してください。
「詳細ブートオプション」が表示されます。

3 ［コンピュータの修復］を選択し、Enterキーを押す

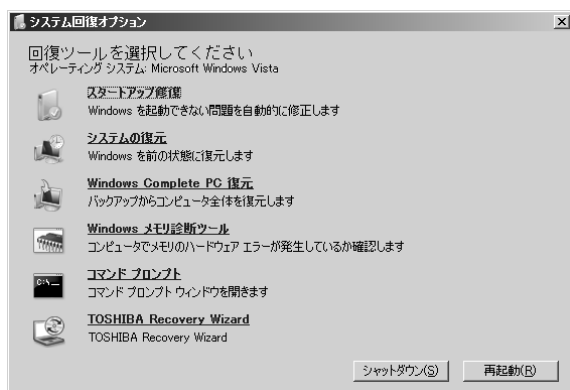
キーボードの選択画面が表示されます。

4 ［日本語］を選択し、［次へ］ボタンをクリックする

ログオン画面が表示されます。

5 ユーザ名を選択し、Windowsログオンパスワードを入力する

6 ［OK］ボタンをクリックする

「システム回復オプション」が起動します。

- **スタートアップ修復**
  システムファイルの不足や破損など、Windowsの正常な起動を妨げる可能性のある問題を解決し、正常に起動できるようにします。
- **システムの復元**
  システムファイルを正常に機能していた日時の状態に復元することができます。
- **Windows Complete PC 復元**
  ＊Businessモデルのみ
  Windows Complete PCバックアップイメージからコンピュータを復元します。
- **メモリ診断ツール**
  メモリが正常に機能しているかどうかを確認します。
- **コマンドプロンプト**
  コマンドプロンプトに切り替えます。
- **TOSHIBA Recovery Wizard**
  リカバリ（再セットアップ）メニューを表示します。

7 使いたいメニュー名をクリックする

この後の操作は、メニューによって異なります。表示された画面の指示に従って操作してください。

メモ　システム回復オプション領域を削除してしまったときは

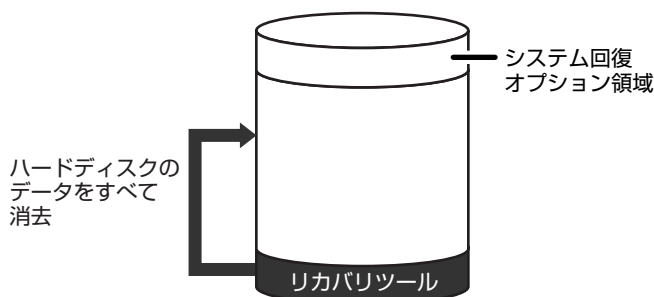
- リカバリをした際、［パーティションサイズを指定して復元］を選択し、［システム回復オプション］のチェックをはずした場合は、この手順では「システム回復オプション」を起動できません。次のいずれかの手順で起動してください。
  - ・リカバリディスクがある場合は、リカバリディスクから「システム回復オプション」を起動することができます。
    ① ACアダプタと電源コードを接続する
    ② リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る
    リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク1」からセットしてください。
    参照 リカバリディスクのセット『取扱説明書』
    ③ キーボードの F12 キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
    ［dynabook］、または［TOSHIBA］画面が表示されたら指をはなしてください。
    ユーザパスワードを設定している場合は、パスワード入力画面が表示されます。
    ユーザパスワードを入力して Enter キーを押してください。
    ④ → または ← キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、 Enter キーを押す
    ［復元方法の選択］画面が表示されます。
    ⑤［システム回復オプション］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

    キーボードの選択画面が表示されます。
    ⑥「日本語」を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
    オペレーティングシステム選択画面が表示されます。
    ⑦「Microsoft Windows Vista」を選択し、［次へ］ボタンをクリックする
    「システム回復オプション」が起動します。
  - ・リカバリディスクがない場合は、ハードディスクから［ご購入時の状態に復元（システム回復オプションあり）］を選択してリカバリをすると、［詳細ブートオプション］→［コンピュータの修復］から「システム回復オプション」を起動できます。

5 ハードディスクの内容の消去

パソコン本体を廃棄、または譲渡する際のハードディスクの消去方法について説明します。
パソコン本体の廃棄方法や、ハードディスク上のデータ消去の重要性などは、『取扱説明書』に記載されていますので、必ず読んでください。

1 ハードディスクの内容をすべて消去する

パソコン上のデータは、削除操作をしても実際には残っています。普通の操作では読み取れないようになっていますが、特殊な方法を実行すると削除したデータでも再現できてしまいます。
そのようなことができないように、パソコンを廃棄または譲渡する場合など、他人に見られたくないデータを読み取れないように、消去することができます。

（ハードディスクのリカバリツールを使用する場合）

なお、ハードディスクに保存されている、これまでに作成したデータやプログラムなどはすべて消失します。これらを復元することはできませんので、注意してください。

操作手順

ハードディスクの内容を削除するには、ハードディスクのリカバリツール、付属または作成したリカバリディスクを使用します。
ハードディスクのリカバリツールを使用すると、ハードディスク内のデータはすべて消去されますが、リカバリツールは残ります。
付属または作成したリカバリディスクを使用すると、ハードディスク内のデータと共にリカバリツールも消去されます。
ここでは、ハードディスクのリカバリツールから行う方法を例にして説明します。リカバリディスクから行う場合は、手順 **1** の前にリカバリディスク（ディスク1）をセットしてください。

1 **パソコンの電源を切る**

2 **ACアダプタと電源コードを接続する**

3 キーボードの 0 （ゼロ）キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

［dynabook］、または［TOSHIBA］画面が表示されたら、指をはなしてください。

■リカバリディスクをセットしている場合

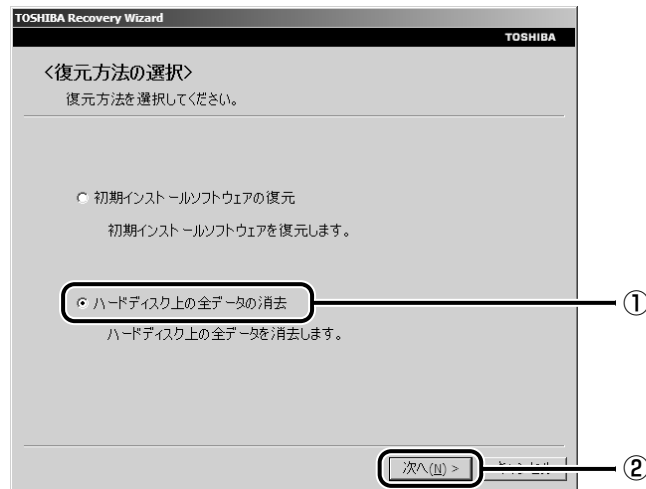
キーボードの F12 キーを押しながら電源スイッチを押し、［dynabook］、または［TOSHIBA］画面が表示されたら、指をはなしてください。
その後、→または←キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、 Enter キーを押してください。

［復元方法の選択］画面が表示されます。
［TOSHIBA Recovery Wizard］をチェックし、［次へ］ボタンをクリックしてください。

メッセージ画面が表示されます。

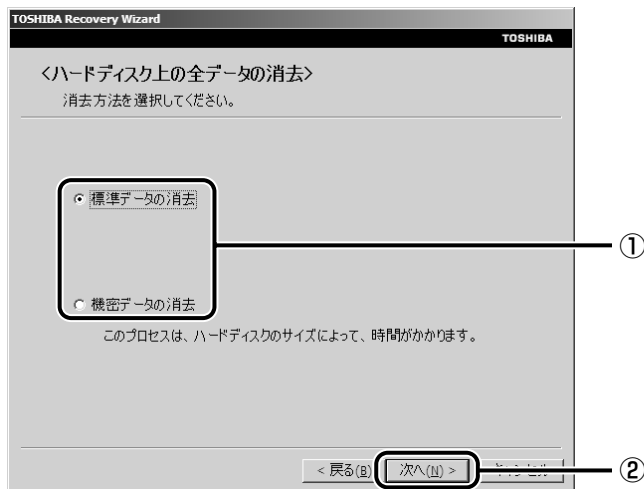
4 画面の内容を確認し、［はい］ボタンをクリックする

［復元方法の選択］画面が表示されます。

5 ［ハードディスク上の全データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

消去方法を選択する画面が表示されます。

5 ハードディスクの内容の消去

6 目的に合わせて、［標準データの消去］または［機密データの消去］をチェックし①、［次へ］ボタンをクリックする②

通常は［標準データの消去］を選択してください。データを読み取れなくなります。
より確実にデータを消去するためには、［機密データの消去］を選択してください。
数時間かかりますが、データは消去されます。

［ハードディスクの内容は、すべて消去されます。］画面が表示されます。

7 ［次へ］ボタンをクリックする

処理を中止する場合は、［キャンセル］ボタンをクリックしてください。
［次へ］ボタンをクリックすると、消去が実行されます。
消去中は、次の画面が表示されます。

消去が完了すると、終了画面が表示されます。

8 ［終了］ボタンをクリックする

リカバリディスクから行った場合は、自動的にディスクトレイが少し出てきます。リカバリディスクを取り出してください。